

韓国語の行為要求型表現とその否定表現の丁寧度に関する研究¹

林 炫情 (山口県立大学)²

玉岡 賀津雄 (名古屋大学)³

要旨: 本研究では、韓国語における待遇レベルの異なる5種類の待遇要求型表現を取り上げ、それぞれの表現に対する丁寧さの主観的判断を、「全く丁寧ではない」の-2から「非常に丁寧である」の+2までの尺度として測定した。また、肯定・否定表現の相互の間の丁寧さに違いがあるかどうかについて定量的に検討した。分析の結果、(1)「~해 줄래/ħɛ tsulle/?」= (2)「~해 줄 수 있어/ħɛtsul sũ isʌ/?」(M=-0.42) < (3)「~해 줄 수 있습니까?/ħɛ tsul sũ itʃũmpnikʌ/?」(M=0.61) < (4)「~해 주시겠습니까/ħɛ tsuɕigetʃũmpnikʌ/?」= (5)「~해 주실 수 있습니까/ħɛ tsul sũ itʃũmpnikʌ/?」(M=0.94)の順で丁寧度が有意に高くなることが分かった。また、肯定・否定による丁寧度の違いは「~해 줄 수 있습니까/ħɛ tsul sũ itʃũmpnikʌ/?」のみに見られ、肯定疑問形よりも否定疑問形の方が丁寧であるという日本語での主張とは異なり、韓国語においては「~해 줄 수 없습니까/ħɛ tsul sũ ɛpʃũmpnikʌ/?」(M=0.38)の否定表現より「~해 줄 수 있습니까/ħɛ tsul sũ itʃũmpnikʌ/?」(M=0.84)の肯定表現のほうがより丁寧であった。さらに、動詞の種類によって肯定・否定の丁寧度に違いが見られず、本調査で用いた動詞の種類の変因は、行為要求型表現の丁寧度の違いを決める変因ではないことが分かった。

キーワード: 行為要求表現、肯定疑問形、否定疑問形、丁寧度、韓国語、回帰木分析

1. はじめに

命令、依頼、勧誘、その他、相手に何らかの行動を起こさせることを目的とする表現を「行為要求表現」(国立国語研究所, 1992)とすると、日本語と韓国語ともにその表現形式には実に様々なものがある。例えば、「教えて!・가르쳐라/karutsʰɾa/!」「立て!・서/sʰɾ/!」といった直接的で強制力の強い言い方がある。その一方で、「~てくれる/~해 주다/ħɛ tsuda/」「~てくださる・~いただく/~해 주시다/ħɛ tsuɕida/」などの授受表現に、否定形・可能形・疑問形を複合させた形を用いて「立ってくれない?/서 주지 않을래/sʰɾ tsudzi

¹ The degree of politeness regarding a difference between affirmative and negative expressions for requests in Korean

² LIM, Hyunjung, Yamaguchi Prefectural University, Japan; hylim@yamaguchi-pu.ac.jp

³ TAMAOKA, Katsuo, Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University, Japan; ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp

anulle/?」「教えてくださいか/가르쳐 주시겠습니까/karwuts^h tsuɕigeŋsumpɲika/?」といった相手の許可を求める、しかもそれをストレートに求めるのではなく、それが可能かどうか相手の意向をたずねるといった言い方もある。

このような行為要求表現の場合、日本語では肯定疑問形よりも否定疑問形のほうが丁寧な感じがすることが敬語や待遇表現の先行研究において指摘されてきた。例えば、「～てくれる?」より「～てくれない?」のほうが、また「～てもらえませんか?」のほうが「～てもらえますか?」より丁寧と感じられるのである。これについて、菊池 (1997)は、否定疑問形のほうが肯定疑問形よりも丁寧な感じがするのは、相手に押しつける感じが弱く、拒否する余地を多く与えるような印象を与えるからであると指摘している。しかし、動作主自身の動作が話し手の期待に直接関係している場合、否定疑問形が相手に「依頼」よりも「命令」の機能を際立たせる場合もあり、否定疑問形のほうが肯定疑問形よりも丁寧であると一概にはいえない。例えば、映画館などで立っている人に対して座ってくださることを頼む場合、「座ってくださいますか」といった否定疑問形表現が「座ってくださいますか」といった肯定疑問形表現より必ずしも丁寧度が高いとは言い難い。むしろ、相手の「立っている」状態を不愉快に思うような場合であれば、「ぐずぐずしないで」「じゃまになるから」のような反語的な意味を内包しているケースもあるため、失礼に聞こえてしまう場合もありうるであろう (国立国語研究所, 1992)。一方、韓国語の場合も、否定表現である「앉아 주시지 않겠습니까/andza tsuɕidzi ank^heŋsumpɲika/? (座ってくださいますか)」よりは、それを肯定表現にした「앉아 주시겠습니까/andza tsuɕigeŋsumpɲika/? (座ってくださいますか)」がより丁寧と感じられる。

しかし、このような行為要求表現の丁寧さを定量化し、丁寧度の解釈に対するそれぞれの主観的判断の傾向をパターン化して捉えるまでには至っていない。そこで本研究では、まず統語的・語用論的に日本語と多くの共通点をもつ韓国語の行為要求型表現を取り上げ、待遇レベルが違う5種類の行為要求型表現について肯定疑問形・否定疑問形それぞれに対する主観的な丁寧さの度合いを定量的に調査することにした。そして、日本語における否定疑問形の行為要求表現が、肯定疑問形のそれに比べて丁寧であるとする主張が、果たして韓国語にも当てはめることができるか、どうかについて検証した。

2. 研究方法

本研究では、韓国ソウルと京畿在住の韓国人大学生 71 名 (女性が 33 名、男性が 38 名) を対象に行ったアンケート調査を基に、韓国語の行為要求型表現とその否定表現の丁寧さについて検討する。

2.1 本研究における「行為要求型表現の丁寧さ」の捉え方

菊池 (2003) は、敬語という言語現象は (1) 〈現実の世界〉での〈社会的・心理的諸要因と、待遇レベルとの関係〉(2) 〈言葉の世界〉での〈語形 (および問題の人物の文法上の特

質)と待遇レベルとの関係)に分けてとらえることができるとしている。つまり、(1)は社会言語学的な側面で、(2)は文法的な側面である。行為要求型表現の丁寧さは、相手や場面といった社会言語学的な観点での要因が強く関係しており、表現そのものは丁寧であっても相手を不愉快にさせてしまうこともたびたびある。そのため、行為要求型表現の丁寧さを考える際には、特定の社会的コンテクストを関連させた考察が必要であろう。しかし、このような社会言語学的な観点での考察は、まず表現それぞれのもつ丁寧さが前提となつたうえで成立するものである。そこで本研究では、韓国語の行為要求型表現の丁寧さを、社会言語学的な観点での要因はすべて排除し、表現の文法的な側面で定量化することとする。

2.2 本研究における行為要求型表現

韓国語は日本語に比べると、丁寧な表現にばらつきがある(生越, 1995)と言われるが、本調査では行為要求型表現のなかでも(1)「~해 줄래 /he tsulle/?」、(2)「~해 줄 수 있어 /he tsul sú isʌ/?」、(3)「~해 줄 수 있습니까 /he tsul sú itʃʌmpɨkʌ /?」、(4)「~해 주시겠습니까 /he tsuɕigeɾʃʌmpɨkʌ /?」、(5)「~해 주실 수 있습니까 / he tsuɕil sú itʃʌmpɨkʌ /?」に注目した。また、(1)'「~해 주지 않을래 /he tsudzianulle/?」、(2)'「~해 줄 수 없어 /he tsul sú apʃʌ/?」、(3)'「~해 줄 수 없습니까 /he tsul sú apʃʌmpɨkʌ/?」、(4)'「~해 주시지 않겠습니까 /he tsuɕidzi ankʰeɾʃʌmpɨkʌ/?」、(5)'「~해 주실 수 없습니까 / he tsuɕil sú apʃʌmpɨkʌ /?」を肯定表現に対する否定表現として用いた。つまり、5種類の肯定表現とそれに対する否定表現の計10種類の行為要求型表現を作成した(表1)。本調査で用いた5種類の肯定表現の行為要求型表現の丁寧度は、韓国の待遇表現に関する先行研究(荻野ら, 1988)から推測すると、(1) < (2) < (3) < (4) < (5)の順で敬度が高くなると予測される。

表1. 本研究で用いた韓国語の行為要求表現

肯定・否定	普通体	可能・普通体	可能・丁寧体	敬体手軟語体	可能・敬語体
肯定	「~해 줄래?」 /he tsulle/	「~해 줄 수 있어?」 /he tsul sú isʌ/	「~해 줄 수 있습니까?」 /he tsul sú itʃʌmpɨkʌ/	「~해 주시겠습니까?」 /he tsuɕigeɾʃʌmpɨkʌ/	「~해 주실 수 있습니까?」 /he tsuɕil sú itʃʌmpɨkʌ/
	「~てくれる?」	「~てもらえる?」	「~てもらえますか?」	「~てくださいますか?」	「~ていただけますか?」
否定	「~해 주지 않을래?」 /he tsudzianulle/	「~해 줄 수 없어?」 /he tsul sú apʃʌ/	「~해 줄 수 없습니까?」 /he tsul sú apʃʌmpɨkʌ/	「~해 주시지 않겠습니까?」 /he tsuɕidzi ankʰeɾʃʌmpɨkʌ/	「~해 주실 수 없습니까?」 /he tsuɕil sú apʃʌmpɨkʌ /
	「~てくれない?」	「~もらえない?」	「~もらえませんか?」	「~てくださいませんか?」	「~ていただけませんか?」

注: 韓国語の用言の敬語表現は、日本語の「~てもらう」「~ていただく」に相当する敬語形式がなく、上位者主伴型として敬語候補「-시/으」を付加して表現するのが一般的である。

また、本研究では動詞による影響を考慮し、「가르치다/*karuts^hida*/ (教える)」「빌리다/*pi^lida*/ (貸す)」「보내다/*poneda*/ (送る)」「말하다/*malhada*/ (話す)」の4種類の動詞を用いて、これらの違いも検討した。したがって、本研究では、5種類の丁寧度の異なる行為要求型表現×肯定・否定×4種類の動詞の合計40種類(5×2×4=40)の表現を調査に使用した。表2は、本調査で用いた韓国語の行為要求型表現を動詞別に表したものである。

2.3 本研究における主観的丁寧度評定の定量化

クロス集計表に基づく待遇表現における定量化を試みた荻野(1986)では、ほとんどすべての待遇表現の丁寧さは、一次元の値として表現できるとしている。また、丸本・白土・伊佐原(2005)では、いろいろな待遇表現に対して人々が感じる丁寧さの大きさは、何らかの心理的な空間における一次元上の値として定量化できるとする。本研究では、行動要求型表現のそれぞれの表現について「全く丁寧ではない」を-2、「あまり丁寧ではない」を-1、「どちらともいえない」を0、「丁寧である」を1、「非常に丁寧である」を2とし、5段階評定による主観的な判断を求めた。これを、-2から2までの主観的丁寧度評定尺度として計算した。これによって得られた行為要求型表現の丁寧さを表す値を、以下「丁寧度」と呼ぶ。分析では、動詞ごとに行為要求型表現の否定・肯定表現の丁寧度を比較するために、肯定表現と否定表現別を反復測定とする分散分析を行った。また、個々の表現の否定と肯定の違いについては、それぞれの表現ごとに対応のあるサンプルの*t*検定(以下、*t*検定とのみ示す)を使って検討した。

3. 動詞ごとの行為要求型表現の肯定・否定表現の丁寧度に関する分析結果

3.1 「가르치다 /*karuts^hida*/ (教える)」の行為要求型の肯定・否定表現の丁寧度

韓国語の「가르치다 (教える)」について、5種類の丁寧度の異なる肯定表現に関する主観的丁寧度の得点について反復測定による分散分析を行った。その結果、主効果は有意であった[$F(4, 280)=66.000, p<.001$]。さらに、表3にまとめたように、5種類の肯定表現について単純対比をすべての組み合わせについて行った(詳細の*F*値および有意確率は省略)。単純対比の結果は、「가르쳐 줄래?」<「가르쳐 줄 수 있어?」<「가르쳐 줄 수 있습니까?」=「가르쳐 주시겠습니까?」=「가르쳐 주실 수 있습니까?」を示した。「가르쳐 줄 수 있습니까?」、 「가르쳐 주시겠습니까?」および「가르쳐 주실 수 있습니까?」が同じグループになっているのは、この3つの丁寧度に有意な違いがなかったことを意味する。

また、否定表現についても同様の分析を行った結果、主効果が見られた[$F(4, 280)=46.429, p<.001$]。丁寧度は、「가르쳐 줄 수 없어?」<「가르쳐 주지 않을래?」<「가르쳐 줄 수 있습니까?」=「가르쳐 주실 수 있습니까?」=「가르쳐 주시지 않겠습니까?」の順で高く、普通体と可能・普通体の丁寧度が肯定表現とは異なる結果となった。

肯定と否定の違いについて、対応のあるサンプルの*t*検定を行った結果は、「가르쳐 줄

表2. 本調査で用いた韓国語の動詞と行為要求表現の一覧

動詞の種類	肯定	「~해 줄리/해 주실까?」 (~てくれる?)		「~해 줄 수 있어/해 주실 수 있어?」 (~てもらえる?)		「~해 줄 수 있습니다/해 주실 수 있습니다?」 (~てもらえますか?)		「~해 주시겠습니까/해 주실까요?」 (~ていただけますか?)		「~해 주실 수 있습니다/해 주실 수 있습니다?」 (~ていただけますか?)	
		質問 番号	質問 番号	質問 番号	質問 番号	質問 番号	質問 番号	質問 番号	質問 番号	質問 番号	質問 番号
가르치다 /garuchida/ (教える)	肯定	가르쳐 줄래? garuchye julle (教えてくれる?)	가르쳐 줄 수 있어? garuchye jul su ieo? (教えてもらえますか?)	가르쳐 줄 수 있습니다? garuchye jul su imnida? (教えてもらえますか?)	가르쳐 주시겠습니까? garuchye jusi getseumnikka? (教えていただけますか?)	가르쳐 주실 수 있습니다? garuchye jusil su imnida? (教えていただけますか?)	1	6	12	30	
		가르쳐 주지 않을까? garuchye jusi anheulkka? (教えてくれない?)	가르쳐 줄 수 없어요? garuchye jul su eopseo? (教えてもらえない?)	가르쳐 줄 수 없습니다? garuchye jul su eopseumnida? (教えてもらえません?)	가르쳐 주시겠습니까? garuchye jusi getseumnikka? (教えていただけますか?)	가르쳐 주실 수 없습니까? garuchye jusil su eopseumnikka? (教えていただけますか?)	15	5	34	21	
	否定	가르쳐 줄래? garuchye julle (教えてくれる?)	가르쳐 줄 수 있어? garuchye jul su ieo? (教えてもらえますか?)	가르쳐 줄 수 있습니다? garuchye jul su imnida? (教えてもらえますか?)	가르쳐 주시겠습니까? garuchye jusi getseumnikka? (教えていただけますか?)	가르쳐 주실 수 있습니다? garuchye jusil su imnida? (教えていただけますか?)	3	20	20	7	
		가르쳐 주지 않을까? garuchye jusi anheulkka? (教えてくれない?)	가르쳐 줄 수 없어요? garuchye jul su eopseo? (教えてもらえない?)	가르쳐 줄 수 없습니다? garuchye jul su eopseumnida? (教えてもらえません?)	가르쳐 주시겠습니까? garuchye jusi getseumnikka? (教えていただけますか?)	가르쳐 주실 수 없습니까? garuchye jusil su eopseumnikka? (教えていただけますか?)	38	37	16	25	
빌리다 /billida/ (貸す)	肯定	빌려 줄래? billye julle (貸してくれる?)	빌려 줄 수 있어? billye jul su ieo? (貸してもらえますか?)	빌려 줄 수 있습니다? billye jul su imnida? (貸してもらえますか?)	빌려 주시겠습니까? billye jusi getseumnikka? (貸していただけますか?)	빌려 주실 수 있습니다? billye jusil su imnida? (貸していただけますか?)	19	29	35	17	
		빌려 주지 않을까? billye jusi anheulkka? (貸してくれない?)	빌려 줄 수 없어요? billye jul su eopseo? (貸してもらえない?)	빌려 줄 수 없습니다? billye jul su eopseumnida? (貸してもらえません?)	빌려 주시겠습니까? billye jusi getseumnikka? (貸していただけますか?)	빌려 주실 수 없습니까? billye jusil su eopseumnikka? (貸していただけますか?)	10	38	16	25	
	否定	빌려 줄래? billye julle (貸してくれる?)	빌려 줄 수 있어? billye jul su ieo? (貸してもらえますか?)	빌려 줄 수 있습니다? billye jul su imnida? (貸してもらえますか?)	빌려 주시겠습니까? billye jusi getseumnikka? (貸していただけますか?)	빌려 주실 수 있습니다? billye jusil su imnida? (貸していただけますか?)	19	29	35	17	
		빌려 주지 않을까? billye jusi anheulkka? (貸してくれない?)	빌려 줄 수 없어요? billye jul su eopseo? (貸してもらえない?)	빌려 줄 수 없습니다? billye jul su eopseumnida? (貸してもらえません?)	빌려 주시겠습니까? billye jusi getseumnikka? (貸していただけますか?)	빌려 주실 수 없습니까? billye jusil su eopseumnikka? (貸していただけますか?)	30	37	4	27	
말하다 /malhada/ (話す)	肯定	말해 줄래? malhae julle (話してくれる?)	말해 줄 수 있어? malhae jul su ieo? (話してもらえますか?)	말해 줄 수 있습니다? malhae jul su imnida? (話してもらえますか?)	말해 주시겠습니까? malhae jusi getseumnikka? (話していただけますか?)	말해 주실 수 있습니다? malhae jusil su imnida? (話していただけますか?)	24	18	29	32	
		말해 주지 않을까? malhae jusi anheulkka? (話してくれない?)	말해 줄 수 없어요? malhae jul su eopseo? (話してもらえない?)	말해 줄 수 없습니다? malhae jul su eopseumnida? (話してもらえません?)	말해 주시겠습니까? malhae jusi getseumnikka? (話していただけますか?)	말해 주실 수 없습니까? malhae jusil su eopseumnikka? (話していただけますか?)	28	11	14	2	
	否定	말해 줄래? malhae julle (話してくれる?)	말해 줄 수 있어? malhae jul su ieo? (話してもらえますか?)	말해 줄 수 있습니다? malhae jul su imnida? (話してもらえますか?)	말해 주시겠습니까? malhae jusi getseumnikka? (話していただけますか?)	말해 주실 수 있습니다? malhae jusil su imnida? (話していただけますか?)	28	11	14	2	
		말해 주지 않을까? malhae jusi anheulkka? (話してくれない?)	말해 줄 수 없어요? malhae jul su eopseo? (話してもらえない?)	말해 줄 수 없습니다? malhae jul su eopseumnida? (話してもらえません?)	말해 주시겠습니까? malhae jusi getseumnikka? (話していただけますか?)	말해 주실 수 없습니까? malhae jusil su eopseumnikka? (話していただけますか?)	28	11	14	2	

래?」、「가르쳐 줄 수 있어?」、「가르쳐 줄 수 있습니까?」、「가르쳐 주실 수 있습니까?」の行為提示型表現で有意な違いが見られた。肯定表現よりもそれを否定した表現に丁寧度が高くなったのは「가르쳐 줄래?」の場合 $[t(70)=-3.948, p<.001]$ のみであった。それ以外の「가르쳐 줄 수 있어?」 $[t(70)=4.368, p<.001]$ 、「가르쳐 줄 수 있습니까?」 $[t(70)=4.909, p<.001]$ および「가르쳐 주실 수 있습니까?」 $[t(70)=2.058, p<.05]$ は、否定表現よりも肯定表現の方がより丁寧であった。また、「가르쳐 주시겠습니까?」については、肯定・否定両表現の丁寧度に有意な違いは見られなかった。この結果は、肯定疑問形よりも否定疑問形の方が丁寧であるという日本語での主張とは異なっており、韓国語においてはこの規則が当てはまらないという結果となった。この結果から、否定によって丁寧度が上がるという特徴は、韓国語では一般化できないことが示された。

表3. 「가르치다(教える)」の行為要求型・肯定・否定表現の丁寧度に関する分析結果

丁寧度	肯定表現	平均値	標準偏差	否定表現	平均値	標準偏差	t-test
1	가르쳐 줄래? karutʰa.tʰul.lae	-0.52	0.91	가르쳐 주지 않을래? karutʰa.tʰudʒi.a.nul.lae	0.08	0.87	***
2	가르쳐 줄 수 있어? karutʰa.tʰul.su.i.ə	-0.07	0.90	가르쳐 줄 수 없어? karutʰa.tʰul.su.a.pʰə	-0.66	0.96	***
3	가르쳐 줄 수 있습니까? karutʰa.tʰul.su.i.tʰim.pʰi.kə	0.96	0.73	가르쳐 줄 수 없습니까? karutʰa.tʰul.su.a.pʰim.pʰi.kə	0.39	0.99	***
4	가르쳐 주시겠습니까? karutʰa.tʰu.sʰi.kʰim.pʰi.kə	1.11	0.77	가르쳐 주시지 않겠습니까? karutʰa.tʰu.sʰi.kʰi.a.nʰim.pʰi.kə	1.03	0.88	n.s.
5	가르쳐 주실 수 있습니까? karutʰa.tʰu.sʰil.su.i.tʰim.pʰi.kə	1.11	0.87	가르쳐 주실 수 없습니까? karutʰa.tʰu.sʰil.su.a.pʰim.pʰi.kə	0.86	1.02	*
分散分析	$F(4, 280)=66.000, p<.001$			$F(4, 280)=46.429, p<.001$			
単純対比	1 2 3 4 5			2 1 3 5 4			

注. * $p<.05$. ** $p<.01$. *** $p<.001$

3.2 「빌리다 /piɾɿlida/ (貸す)」の行為要求型の肯定・否定表現の丁寧度

肯定表現について 3.1 同様の分散分析を行った結果、有意な主効果がみられた $[F(4,280)=66.319, p<.001]$ 。さらに、5種類の肯定表現に関する単純対比の結果、表4に示したように 3.1 と同じく「빌려 줄래?」<「빌려 줄 수 있어?」<「빌려 줄 수 있습니까?」=「빌려 주시겠습니까?」=「빌려 주실 수 있습니까?」の丁寧度の結果が得られた。また、否定表現においても有意な主効果が得られた $[F(4,280)=64.621, p<.001]$ 。5種類の否定表現についての単純対比の結果、丁寧度は「빌려 줄 수 없어?」<「빌려주지 않을래?」<「빌려 줄 수 없습니까?」<「빌려 주실 수 없습니까?」<「빌려 주시지 않겠습니까?」の順で高くなることが分かった。

肯定と否定の違いについて、対応のあるサンプルの t 検定を行った結果、「빌려 줄래?」、「빌려 줄 수 있어?」、「빌려 줄 수 있습니까?」の行為提示型表現で有意な違いが見られた。

「빌려줄래?」 $[t(70)=-5.040, p<.001]$ は肯定表現よりもそれを否定した表現に丁寧度が高いこ

とが分かった。一方、「빌려 줄 수 있어?」[$t(70)=7.108, p<.001$]と「빌려 줄 수 있습니까?」[$t(70)=3.693, p<.001$]は、肯定の場合よりもそれぞれを否定した場合の丁寧度がより低くなること分かった。「빌려 주시겠습니까?」および「빌려 주실 수 있습니까?」は肯定・否定両表現に有意な違いは見られなかった。やはり、韓国語には、肯定よりも否定の方が丁寧になるとは断定できないことが分かった。

表4. 「빌려다(貸す)」の行為要求型・肯定・否定表現の丁寧度に関する分析結果

丁寧度	肯定表現	平均値	標準偏差	否定表現	平均値	標準偏差	t-test
1	빌려 줄래? piAllya taulle	-0.87	0.91	빌려 주지 않을래? piAllya tsudzi anulle	-0.18	1.06	***
2	빌려 줄 수 있어? piAllya taul su issa	0.17	0.96	빌려 줄 수 없어? piAllya taul su eppa	-0.89	0.93	***
3	빌려 줄 수 있습니까? piAllya taul su itsumpikka	0.79	0.81	빌려 줄 수 없습니까? piAllya taul su eptsumpikka	0.35	1.00	***
4	빌려 주시겠습니까? piAllya tsuajetsumpikka	0.90	0.85	빌려 주시지 않겠습니까? piAllya tsuajizi anketsumpikka	1.10	0.83	n.s.
5	빌려 주실 수 있습니까? piAllya tsuajil su itsumpikka	0.99	0.90	빌려 주실 수 없습니까? piAllya tsuajil su eptsumpikka	0.86	0.91	n.s.
分散分析	$F(4,280)=66.319, p<.001$			$F(4,280)=64.621, p<.001$			
単純対比	1 2 3 4 5			2 1 3 5 4			

注 * $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

3.3 「보내다 /poneda/ (送る)」の行為要求型の肯定・否定表現の丁寧度

肯定表現における同様の分散分析を行った結果、主効果が有意であった[$F(4,276)=99.526, p<.001$]。単純対比の結果、表5に示したように「보내 줄래?」<「보내 줄 수 있어?」<「보내 줄 수 있습니까?」=「보내 주시겠습니까?」<「보내 주실 수 있습니까?」の順で丁寧度が高かった。否定表現についても有意な主効果が見られた[$F(4,272)=41.955, p<.001$]。5種類の否定表現についての単純対比結果は、表5に示した通りである。丁寧度は「보내 줄 수 없어?」=「보내 주지 않을래?」<「보내 줄 수 없습니까?」<「보내 주실 수 없습니까?」=「보내 주시지 않겠습니까?」の順で高くなっていた。「보내 줄 수 없어?」および「보내 주지 않을래?」が同じグループであることから分かるように、「보내다」の動詞は、普通体と可能・普通体の否定表現の丁寧度には有意な違いが見られなかった。

肯定と否定の違いに関する t 検定の結果、「보내 줄래?」、「보내 줄 수 있어?」、「보내 줄 수 있습니까?」、「보내 주실 수 있습니까?」の行為提示型表現で有意な違いが見られた。

「빌려 줄래?」[$t(69)=-5.408, p<.001$]は肯定表現 ($M=-0.93$)よりも否定表現 ($M=-0.36$)の方が、

より丁寧度が高いことが分かった。一方、「보내 줄 수 있어?」 $[t(70)=2.256, p<.05]$ 、「보내 줄 수 있습니까?」 $[t(70)=6.324, p<.001]$ および「보내 주실 수 있습니까?」 $[t(69)=2.633, p<.01]$ については、否定表現よりも肯定表現の丁寧度が高い結果となった。「빌려 주시겠습니까?」は肯定・否定両表現に有意な違いは見られなかった。以上の結果が、「빌리다」動詞においても、否定表現が肯定表現より丁寧であるとは言い難い。

表5. 「보내다(送る)」の行為要求型・肯定・否定表現の丁寧度に関する分析結果

丁寧度	肯定表現	平均値	標準偏差	否定表現	平均値	標準偏差	t-test
1	보내 줄래? pone taulk	-0.93	0.75	보내 주지 않을래? pone taulbi analk	-0.36	0.84	***
2	보내 줄 수 있어? pone taul su iia	-0.25	0.91	보내 줄 수 없어? pone taul su a'ia	-0.54	1.02	*
3	보내 줄 수 있습니까? pone taul su i'iam pi'a	0.83	0.82	보내 줄 수 없습니까? pone taul su a'iam pi'a	0.16	0.95	***
4	보내 주시겠습니까? pone taula'iam pi'a	0.86	0.90	보내 주시지 않겠습니까? pone taula'iam a'iam pi'a	0.86	0.86	n.s.
5	보내 주실 수 있습니까? pone taul su i'iam pi'a	1.13	0.75	보내 주실 수 없습니까? pone taul su a'iam pi'a	0.86	0.97	**
分散分析	$F(4,276)=99.526, p<.001$			$F(4,272)=41.955, p<.001$			
単純対比	1 2 3 4 5			2 1 3 5 4			

注 * $p<.05$. ** $p<.01$. *** $p<.001$

3.4 「말하다 /malhada/ (話す)」の行為要求型の肯定・否定表現の丁寧度

肯定表現に対し、これまで同様の分散分析を行った結果、有意な主効果がみられた $[F(4,272)=69.569, p<.001]$ 。さらに、5種類の肯定表現に対する単純対比の結果、「말해 줄래?」 $<$ 「말해 줄 수 있어?」 $<$ 「말해 줄 수 있습니까?」 $=$ 「말해 주시겠습니까?」 $<$ 「말해 주실 수 있습니까?」の順で丁寧度が高かった。否定表現でも有意な主効果が得られた $[F(4,276)=39.727, p<.001]$ 。単純対比の結果、丁寧度は「말해 줄 수 없어?」 $<$ 「말해 주지 않을래?」 $<$ 「말해 줄 수 없습니까?」 $=$ 「말해 주실 수 없습니까?」 $=$ 「말해 주시지 않겠습니까?」の順で高く、否定・可能・普通体である「말해 줄 수 없어?」のほうが否定・普通体「말해 주지 않을래?」よりも丁寧度が低かった。

肯定と否定の違いについては、 t 検定の結果、「말해 줄래?」、「말해 줄 수 있어?」および「말해 주실 수 있습니까?」の行為提示型表現で有意な違いが見られた。「말해 줄래?」 $[t(70)=-4.782, p<.001]$ は肯定表現よりもそれを否定した表現が丁寧であった。しかし、「말해 줄 수 있어?」 $[t(69)=3.823, p<.001]$ と「말해 주실 수 있습니까?」 $[t(69)=2.702, p<.01]$ では否定表現よりも肯定表現の丁寧度の方がより高い結果となった。「말해 줄 수

있습니까?」と「말해 주시겠습니까?」は肯定・否定両表現に有意な違いは見られなかった。これまでにみた動詞の場合と同様に、肯定よりも否定の方が丁寧であるとは一概にはいえなことが分かった。

表6. 「말하다(話す)」の行為要求型・肯定・否定表現の丁寧度に関する分析結果

丁寧度	肯定表現	平均値	標準偏差	否定表現	平均値	標準偏差	t-test
1	말해 줄래? malhe tulk	-0.75	0.92	말해 주지 않을래? malhe toudzi anulle	-0.21	0.89	***
2	말해 줄 수 있어? malhe toul su issa	-0.15	0.87	말해 줄 수 없어? malhe toul su apssa	-0.63	1.04	***
3	말해 줄 수 있습니까? malhe toul su issamnikka	0.78	0.84	말해 줄 수 없습니까? malhe toul su apssamnikka	0.66	1.00	n.s.
4	말해 주시겠습니까? malhe toulissimnikka	0.71	0.92	말해 주시지 않겠습니까? malhe toulissi an'etissimnikka	0.87	1.11	n.s.
5	말해 주실 수 있습니까? malhe toul su issimnikka	1.06	0.83	말해 주실 수 없습니까? malhe toul su apssimnikka	0.76	0.95	**
分散分析		$F(4,272)=69.569, p<.001$			$F(4,276)=39.727, p<.001$		
単純対比		1 2 3 4 5			2 1 3 5 4		

注 * $p<.05$. ** $p<.01$. *** $p<.001$

4. 回帰木による総括的分析

本研究の肯定と否定表現の違いが韓国語の行為要求型表現の丁寧度に及ぼす影響を総括的に検討するために、回帰木(regression tree)による分析を行った。分析には、SPSS 社が開発した Answer Tree 3.0J (SPSS, 2001)を使用した。回帰木分析では、丁寧度(-2 から+2 の敬度)を、5 種類の行為要求型表現(「~해 줄래/hε tsulle/?」から「~해 주실 수 있습니까/hε tsul sū iŕsumpika/?」)と 2 種類の肯定・否定の表現、4 種類の動詞によって予測する分析を行った。この分析では、次の3つのことを検討していることになる。①丁寧度は行為要求型表現の種類によって異なるか。②丁寧度は肯定・否定によって異なるか。③丁寧度は動詞の種類によって異なるか。回帰木の分析結果は、図1に示したとおりである。

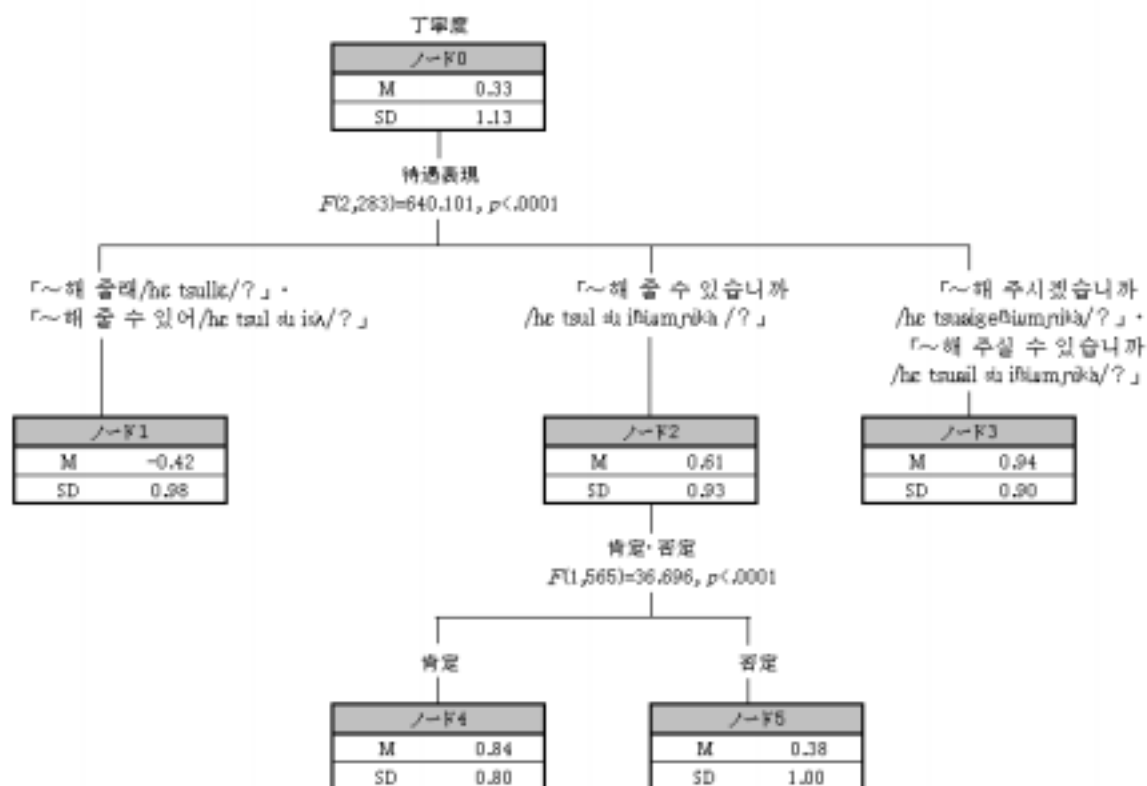


図1 韓国語の行為要求型表現とその否定表現の丁寧度に関する回帰木分析
注. Mは平均, SDは標準偏差を示す。

図1の回帰木の出発点であるノート0は、分析対象となる40種類行為要求型表現全体の丁寧度で、その平均が0.33(標準偏差は1.13)であることを示している。丁寧度のノート0からは、ノート1からノート3まで行為要求型表現の違いについての枝が伸びている。これは、ノート1からノート3のそれぞれの表現において、丁寧度に有意な違いがあることを示している[$F(2,283)=640.101, p<.0001$]。また、ノート1で「~해 줄래/hε tsulle/?」と「~해 줄 수 있어/hε tsul sū isʌ/?」、そしてノート3で「~해 주시겠습니까/hε tsuŕigeŕsumpika/?」と「~해 주실 수 있습니까/hε tsuŕil sū iŕsumpika/?」が同じノードになっているのは、これら2つの表現の丁寧度がほぼ同じで、有意な違いが認められなかったことを

示している。したがって、5種類の行為要求型表現は、丁寧度では3種類に分けられることになる。次に、ノード2の「~해 줄 수 있습니까?」については、さらに枝が伸びており、この表現については、否定・肯定の要因が丁寧度に影響していることを示している[$F(1,565) = 36.696, p < .0001$]。それぞれの平均を比べると、否定表現 ($M=0.38$) よりも肯定表現 ($M=0.84$) の平均が高く、否定表現の「~해 줄 수 없습니까?」よりは肯定表現の「~해 줄 수 있습니까?」ほうがより丁寧であると判断するようである。なお、回帰木の総括的な分析で、肯定と否定の違いがみられたのは、この表現のみである。

5. まとめ

肯定と否定表現の違いが韓国語の行為要求型表現の丁寧度に及ぼす影響について、回帰木分析による結果を中心にまとめると、次の3つの疑問に対する回答に要約することができる。

第1に、丁寧度は行為要求型表現の種類によって異なるのかという疑問である。これについては、肯定表現では(1)「~해 줄래/해 tsulle/?」 < (2)「~해 줄 수 있어/해 tsul sú isʌ/?」 < (3)「~해 줄 수 있습니까/해 tsul sú itkʰeʃʌmɲika/?」 < (4)「~해 주시겠습니까/해 tsuɕigeʃʌmɲika/?」 < (5)「~해 주실 수 있습니까/해 tsuɕil sú iʃʌmɲika/?」の順、否定表現は(1)'「~해 주지 않을래/해 tsudzi anulle/?」 < (2)'「~해 줄 수 없어/해 tsul sú ʌpʃʌ/?」 < (3)'「~해 줄 수 없습니까 /해 tsul sú ʌpʃʌmɲika/?」 < (4)'「~해 주시지 않겠습니까/해 tsuɕidzi ankʰeʃʌmɲika/?」 < (5)'「~해 주실 수 없습니까/해 tsuɕil sú ʌpʃʌmɲika/?」の順で丁寧度が高くなると予想した。しかし、当初の予想とは異なり、(1)と(2)、そして(4)と(5)の間には有意な違いは認められず、丁寧度のパターンは(1)「~해 줄래/해 tsulle/?」 = (2)「~해 줄 수 있어/해 tsul sú isʌ/?」 ($M=-0.42$) < (3)「~해 줄 수 있습니까/해 tsul sú iʃʌmɲika/」 ($M=0.61$) < (4)「~해 주시겠습니까/해 tsuɕigeʃʌmɲika/?」 = (5)「~해 주실 수 있습니까/해 tsul sú iʃʌmɲika/?」 ($M=0.94$) の順で高くなることが分かった。

第2に、丁寧度は肯定・否定によって異なるかという疑問である。「~해 줄 수 있습니까 /해 tsuɕil sú iʃʌmɲika/?」のみ、肯定・否定の要因が認められたが、丁寧度は「~해 줄 수 없습니까/해 tsul sú ʌpʃʌmɲika/?」 ($M=0.38$) の否定表現より「~해 줄 수 있습니까?」 ($M=0.84$) の肯定表現のほうが高かった。つまり、韓国語については、菊池 (1997) の否定疑問形の行為要求表現の方が肯定疑問形の行為要求表現よりも丁寧度が高くなるという日本語での指摘が支持されなかった。

第3に、肯定・否定の丁寧度は動詞の種類によって異なるかどうかという疑問である。これについては回帰木に描かれなかったことから、本研究で用いた動詞の種類は、行為要求型表現の丁寧度の違いに影響しないことが分かった。つまり、「가르치다/karutsʰida/ (教える)」「빌려주다/pilʌida/ (貸す)」「보내다/poneda/ (送る)」および「말하다/malhada/ (話す)」の4種類の動詞の丁寧度のパターンには違いがないと言える。

以上のように、本研究では、行為要求表現の場合、否定疑問形は相手に押しつける感じが

弱まるので肯定疑問形よりも丁寧な感じを与えるという菊池 (1997)の指摘は、あくまで日本語での一般化であり、この規則は韓国語には当てはまらないことを実証した。

参考文献

- 生越まり子 (1995) 「依頼表現の対照研究—朝鮮語の依頼表現—」『日本語学』 **14**(10). 50-60.
- 荻野綱男 (1986) 「待遇表現の社会言語学的研究」『日本語学』 **5**(12). 55-63.
- 荻野綱男・鍊俊・梅田博之・羅聖淑・盧頭松 (1990) 「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』 **136**. 1-51.
- 菊池康人 (1997) 『敬語』 講談社
- 菊池康人 (2003) 「敬語とその主な研究テーマの概観」 北原保雄 (監修)・菊池康人 (編) 『敬語』 朝倉書店
- 国立国語研究所 (1992) 『日本語教育指導参考書 18・敬語教育の基本問題 (下)』 国立国語研究所
- 丸本聡子・白土保・伊佐原均 (2005) 「動詞待遇表現に対する丁寧さの印象に関する定量的分析—接頭辞オを用いた表現と接頭辞ゴを用いた表現との比較」『自然言語処理』 **12**(5). 71-90.

(対照言語学/言語心理学)

한국어 행위요구표현과 그 부정표현의 정중도에 관한 연구

임 현정(야마구치현립대학)
다마오카 가츠오(나고야대학)

요지: 본 연구에서는 한국어의 행위요구표현(行為要求表現) 중에서도 대우 레벨이 다른 5 종류의 표현에 대해 각각의 정중도(丁寧度)를 「전혀 정중하지 않다」 -2 에서 부터 「대단히 정중하다」 +2 까지의 척도로 측정해 보았다. 그리고 긍정·부정표현 상호간의 정중도에는 과연 차이가 있는지 없는지에 대해 검토하였다. 긍정과 부정표현의 차이가 한국어의 행위요구표현의 정중도에 미치는 영향을 전체적으로 파악하기 위해 회귀분석(回帰分析)을 실시한 결과, (1) 「~해 줄래/hε tsulle/?」 = (2) 「~해 줄 수 있어/hetsul sū isʌ/?」 (M=-0.42) < (3) 「~해 줄 수 있습니까?/hε tsul sū iʃʌmpnikʌ/?」 (M=0.61) < (4) 「~해 주시겠습니까/hε tsuɕigetʃʌmpnikʌ/?」 = (5) 「~해 주실 수 있습니까/hε tsuɕil sū iʃʌmpnikʌ/?」 (M=0.94)의 순서로 정중도가 유의하게 높아지는 것을 알 수 있었다. 또한, 긍정·부정에 의한 정중도의 차이는 「~해 줄 수 있습니까/hε tsul sū iʃʌmpnikʌ/?」에서만 보여, 긍정 의문형보다도 부정 의문형 쪽이 정중하다고 하는 일본어에서의 주장과는 달리, 한국어에 있어서는 긍정표현인 「~해 줄 수 있습니까/hε tsul sū iʃʌmpnikʌ/?」 (M=0.84)가 부정표현인 「~해 줄 수 없습니까/hε tsul sū ʌpʃʌmpnikʌ/?」 (M=0.38) 보다도 정중도가 높음을 알 수 있었다. 동사 종류에 따른 긍정·부정의 정중도 차이는 보여지지 않았다. 즉, 본 조사에서 사용한 동사 종류의 요인은 행위요구표현의 정중도의 차이를 결정하는 적극적인 요인은 아니라고 할 수 있다.

키워드: 행위요구표현(行為要求表現), 부정 의문형, 긍정 의문형, 정중도(丁寧度), 한국어, 회귀분석(回帰分析)

